



おかやまコープ



ならコープ



コープあいづ



コープかごしま



コープながの



コープあいち

つながれ! 生協の輪

復興支援ツールで全国が応援

全国の生協では今、「つながろう! 日本の元気」と印字されている車両ステッカーやバッジ、店舗ポスターなどを、全国共通の復興支援ツールとして活用しています。その活用の様子と、全国から届いた応援の声をご紹介します。



支援バッジ



元気タオル



車両ステッカー



店舗ポスター



「つながろうCO-OPアクション情報 特別版」



生協ひろしま



東海コープ



コープとうきょう

全国で一斉に 復興支援ツールを活用

ある昼下がり。コープえひめの宅配トラックが、組合員の家に到着する。家から出てきた組合員が「これは何？」と指差した先にあるのは、「つながろう！ 日本の元気」と印字されたステッカーだ。配達担当者の綿貫陽介わたぬきひょうすけさんは、笑顔で、

「東北の皆さんを日本全体で応援しよう、というメッセージのステッカーなんです。全国の生協で使っているんですよ」と答える。

それに対して、「東北の商品をもっと取り扱ってあげて」「震災を忘れない気持ちが大切だね」と会話が広がっているのが印象的だ。



「写真のステッカーは、いくつかの班で話題になりました」
コープえひめ・松山南支所の綿貫陽介さん。

震災から1年を迎え、全国の生協では継続した支援の気持ちを共有するために、復興支援ツールを活用している。用意された支援ツールは五つ。「復興祈念 つながろう！ 東北の元気タオル」（以下、元気タオル）、支援バッジ、車両ステッカー、店舗ポスター、「つながろうCO・OPアクション情報 特別版」だ（P.24参照）。

元気タオル誕生秘話

コープ東北サンネット事業連合（以下、サンネット）では、元気タオルを製作し、震災から1年がたった3月11日、いわて生協・みやぎ生協・コープふくしまの全店舗で無料配布を行なった。

タオルを受け取ったみやぎ生協組合員の阿部幹夫あべみさおさんは、

「生協はこの1年の間に何回も、タオルのような日用品や食品の配布をしてくれたので、被災から立ち直る皆の役に立っています」と笑顔で話す。



みやぎ生協組合員
阿部幹夫さん

このタオルと同じタオルが全国でも活用されている。サンネットの協力の下、日本生協連から全国に活用を呼び掛けたところ、35生協から計8万4千本の注文があった。この手配を行なった日本生協連・店舗事業支援部の大久保勲おおくほは、

「全国店舗営業企画会議で、サンネットさんよりタオル製作の報告がありました。それを受けて、他生協さんからも、『ぜひ、取り組みたい』と要望がありました。同じタオルを手配することになったのです。多くの生協がタオルを注文してください、『復興のために何かしたい』という思いが伝わってきました」と話す。

全国の生協に届けられたタオルの活用法は、「店舗を訪れた組合員に配る」「募金した人に配る」「店舗・宅配で販売する」「常勤理事会で配る」「地域の他団体に活用を呼び掛ける」「地域の催しで配布する」などさまざまだ。

ユーコープ事業連合では、岩手県の



日本生協連・会員支援本部
店舗事業支援部 大久保勲



いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまでは、3月11日にタオルを無料配布。

米を購入した組合員に無料でプレゼントした（P.26写真右下）。また、コープおおいたでは、共同購入（宅配）店舗にて、1本200円で販売。コープおおいた・組織運営部の佐々木猛士ささきたけしさんは、

「このタオルは、組合員さんが販売してくれて、売り上げの一部を、今後の継続した支援活動に活用します。また、災害支援でつながりのできた県の社会



コープおおいた・組織運営部
佐々木猛士さん



コープおおいとの店舗では、組合員が元気よくタオル購入を呼び掛け、多くの人が購入していた。

復興支援ツール誕生秘話

福祉協議会からの紹介で、県内のボランティア関連の団体からもタオルを購入したいとたくさんの方の申し込みがあったり、取引先のメーカーさんが工場内で使用するために購入してくださったこともありました。支援の気持ちが生協の外にもつながっていくことを、大変うれしく思っています」とタオルの使用用途について話していた。

タオルと同時に、他の支援ツールも全国の生協で活用されている。これらの復興支援ツールを企画した日本生協連・宅配事業支援部の松居哲生は、「震災直後、他の職員と一緒に被災地

「全国から支援ツール活用の報告が届いています」

エフコープより

「東日本大震災により、人と人とのつながり、絆の大切さを、あらためて実感しました。日本中が復興へ向けて一丸となっている今、私たちが明るい笑顔と元気なあいさつで、組合員の皆さんに、思いを伝えていきます」



鳥取県生協より

「鳥取の組合員さんも心配しています。震災から1年以上が経過しましたが、いまだ復興のめどが立たない状況が続いているようです。あの日の事実を忘れずに、私にできること、皆でできることを考えて被災地に届け応援をしていきたいと思えます。共に頑張りましょう」



みやぎ生協より

「全国の生協の仲間と一緒に頑張っているという感じがします！ 支援してくださっている全国の生協への恩返しとして、絶対に復興させる！ という気持ちになりました」

「人と人とのつながりや絆、人への思いやりが大事だと再発見できるツールでした」



に行きました。その後、1日たりとも被災地のことを思い出さない日はありません。全国で何か統一のものを作り、つながっていかれたらと思います、サンネット



日本生協連・会員支援本部
宅配事業支援部 松居哲生

トの元気タオルのデザインを基にしたロゴや地図を入れて復興支援ツールを作りました。これらを活用することによって、職員同士や組合員さんと震災に関する会話が広がれば、被災地のことを思い出すきっかけにもなります。そのきっかけが全国何千カ所にも広がれば、支援を継続していく大きな力が生まれるのではないかと思ったのです。そのエネルギーで、被災地復興を願う心の輪を広げていってほしいと思います」と語っていた。



ユーコープ事業連合では、被災地で生産・加工された商品の売り上げの約1%を義援金とした。

※支援バッジ(44生協 計5万760個)、車両ステッカー(49生協 計2万2,625枚)、店舗ポスター(33生協 計2,700枚)、「つながろうCO・OPアクション情報 特別版」(45生協 計8万6,000部)をご注文いただいた。